日本郵船株式会社

2015 年 2 月

2015 年 3 月期第 3 四半期決算説明会　質疑応答の要旨

【定期船事業】

Q1 来期の年間契約更改に関し、現時点での運賃交渉状況を教えてください。

A1 北米航路は荷況も旺盛で、かつ西岸港の混雑問題により東岸航路はスペースタイトとなっており、その状況で一部始まっている運賃更改は良い感触を得ています。欧州航路の積み高は繁忙期までは好調が続くと考えておりますが、大型船が続々と投入され供給過多となっており、値上げは少し厳しい状況です。

Q2 北米西岸港の混雑状況につきアップデートしてください。

A2 労使交渉は少しずつではありますが進展し、関係者間で一部合意した部分もあると聞いています。
収束も近いと期待しておりますが、港の混雑は、交渉妥結後も平常運営に戻るにはしばらく時間がかかると予想されます。

【貨物航空事業】

Q1 第 3 四半期は黒字を達成しましたが、今後の見通しを教えてください。

A1 航空貨物の需要は前年対比で 2013 年秋以降プラスに転じており、来期も続いていくと考えています。機材に関しては、経済性の高い機材を揃えており、積み高が伸びていけば結果が出ると考えています。また、3Q ではチャーター便がかなり出ましたが、今まで以上にお客様の要望を早めに察知し、整備・運航共々全社体制でその要望に対応できるようになってきたと考えています。来期は黒字を目指し取り組んでおります。

【その他】

Q1 経常利益の上方修正と、昨年末にプレスリリースした米国ターミナルの売却益を考慮すると、通期当期純利益の上方修正幅が小さいかと思いますが、その理由があれば教えてください。

A1 一定の構造改革費用を見込んでおり色々と検討している段階でございます。

Q2 社長交代に伴い、今後の戦略に何か変更があるのか教えてほしい。

A2 基本的には現中期経営計画の達成を目指すことから変わりありません。